

平成26年度 弘前市総合計画審議会議事概要（第1回）

日 時	平成26年12月24日（水） 13時00分～15時00分		
場 所	弘前消防本部3階 大会議室	傍聴者	0人
出席者 (13人)	委員 (16人)	檜楨委員、村松委員、生島委員、阿部委員、齋藤委員、中村委員、淀野委員、島委員、成田委員、工藤委員、北村委員、鈴木委員、佐藤委員、山本委員、青山委員、三上委員	
	説明者・事務局 (5人)	市長、経営戦略部長、行政経営課長、行政経営課長補佐、行政経営課主幹、行政経営課総括主査	
	その他	—	

会 議 概 要

1 開会

2 市長挨拶

3 諮問書提出

○市長から審議会会長（檜楨委員）へ諮問書の提出

4 弘前市総合計画審議会の役割等について

○審議会の役割等について事務局から説明

⇒事務局からの説明に対し、委員からの質問・意見等なし。

5 議事

(1) 2015年度に向けた弘前市経営計画の改訂基本方針について

○事務局より、改訂基本方針について説明。

⇒事務局の説明に対し、委員からの質問・意見等なし。

(2) 2015年度に向けた改訂案（施策体系）について

○事務局より、経営計画施策体系の改訂案について説明。

○主な質疑等の内容は以下とおり。

- ・施策について集中的に審議してくださいということですが、事業については、審議、検討しなくていいのか。

⇒事業については、現在、予算編成等も踏まえ、整理しているところだが、簡単に廃止事業等について説明する。（廃止事業について説明）

- ・稲わらの煙については、まだ出ている。タバコの害と同じようなもので、短命県返上のためには必要かとも思っている。確かに市内では減っているかもしれないが。
⇒稲わらの取組をすべてやめるのではないが、この事業は漉き込みや腐熟促進剤等に対する補助の事業であり、その部分をやめるということである。漉き込みの機械等が普及したこともあり、今後は普及啓発を行っていく。
- ・東京オリンピックの参画活動についてだが、経営計画は20年を見越した計画である。計画の更新ということもあるが、今後20年のなかで、7年後のオリンピックを計画上どう位置付けるのか。大学関係機関も協力するということがフォーラム等を開催したが、東京開催のオリンピックを地方でどう支援するかということが難しいというところもあった。合宿誘致がそういった取組であろうが、例えば誘致した協議について、弘前市の中で定着を図るとか、ある国に対して支援したときにその国について理解を深めるとか、そういったスポーツ文化を定着するといった取組として、オリンピックを契機とした弘前市のスポーツ文化等の活性化といったものにするというような施策にした方が具体的な事業も作りやすいのではないか。
⇒オリンピックについては、おっしゃる通り、オリンピックが終われば終わりというものにはしないつもりであり、スポーツ人材の育成などについても取り組んでいく。
- ・スマイルアップ補助事業はひとづくりの子育て支援という文脈にあったのが、まちづくりの空き家対策にするとちょっと文脈がことなるかなど。空き家対策にするのであれば、それを包摂するような施策名にするべきなのではないかと感じた。
⇒スマイルアップについては、経済的負担の軽減ということで3年取り組んできたが、一応の目的については、すべての希望者について叶えるのは難しいが、一定の目的は達したのではないかと考えている。そして、まちづくりの空き家対策に位置付けるということについては、スマイルアップをまちづくりの分野にスライドするという意味ではなく、一定の目的を達したので一度終了し、空き家空地等のリフォームなどといった、もう少し広い意味での取組にすることである。
- ・弘前公園周辺等となっているが、ここに吉野町も含めるのは無理があるのではないかと思う。
⇒弘前公園周辺等については、当初は弘前公園周辺及び吉野緑地周辺としていたが長いのでまとめてしまった。ただ、取組としては公園周辺や吉野緑地を一体

として考えていきたいと思っている。ただ、分かりづらい等があれば、検討してみたい。

- ・リンゴ等の輸出については、他の作物も含めるのか、リンゴに特化したものなのか、はっきりしたほうがいいと思う。農家等の経営安定化に向けた支援というところは、具体的に何したいのか分からないように思う。生産と技術は別なところでやるのか？という説明がほしい。

⇒リンゴの輸出対策ということについては、今、主となるものはリンゴになると思う。生産技術のところについては、技術的な部分をイノベーションのところでさらに高めていきたいということで分けて施策を立てている。

- ・観光については、岩木山観光に特化しているが、オール弘前ということであれば、もう少し広くとらえてもいいのではないかと思う。

⇒観光については、市全体ということで取り組んできたのであるが、たとえば嶽温泉のあたりなどや、弥生憩いの広場など、岩木山周辺も弘前の重要な資源だと思っていることから、強化したいと考えている。

- ・総合計画審議会のありかたについて、今施策の話をしているなかで、関連して結局事業の位置づけ等の話になっている。つまり、それをいちいち説明しないと施策の体系に行けないということであると思う。なので、今後、こういうことがある場合はどういう風にして進行していくのかということを決めないと議論にならない。それから、以前お伺いしたのは、計画事業も議会の議決を得るということであった。そうすると今我々が審議していることが3月議会で提案になるのであれば、審議会の議論がすべてよしとして議会で提案されるということになるということであるとおもうが、それについて考え方をお伺いしたい。

⇒おっしゃる通り、前段の廃止等の説明はしないと理解が進まないということについては、今後注意したいと思う。それから、計画事業について、変更のあるものについては、今回議論の対象となるものであるが、策定されたものから、変更のないものについては、策定時に議論されたものと考えている。

したがって、廃止等の説明について、しっかりしたうえで議論を進めるべきかと思っている。

それから、計画事業については、予算編成の中での議論もあるため、1月中に最終案として固まったものについて説明はできるかと思っている。また、策定時から変更のないものについては、先ほど説明したとおり、再度議論してもらうということは考えていない。

- 第2回の審議会では、計画の内容も含めて委員に意見を聞くということか。それが委員の欲求不満となっているのではないかと思う。要は、委員が何をするのかということである。
- スピーディーに、PDCAの評価を終えていなくても、改訂したいということであるということであった。また、議会にも回り、政治と行政の一体化をしながら、修正したいということである。答申までは詰めていないが、1月の段階で答申するということだと思うので、次回には、今出たような意見も踏まえて、進めて欲しい。
- 移住という項目について、移住という項目は時代の流れでもあるが、戦略推進システムの中に入っているというのは若干違和感を感じている。人口増加対策ということで、地方の最重要課題であり、2地域居住も含めて、あるいは、観光のところに近い場所にあってもいいのかもしれない。国の動きの中で、出生率を再生産できる2.07まで目指したいというものの中で、それに、移住とか2地域居住とかが絡むかどうかという点もあるが、戦略推進システムという枠の中にあるのが少し気になった。意見ということで、ご検討いただければ。
- 施策の変更というなかで、統廃合の説明までしてもらったが、この場に来てこの資料を見てという中で、何故統合なのか、なぜ廃止なのか、なぜ新規なのか、何故分けなければいけないのかというところが見えないところがある。
ということで、次の審議会のところで、概略でもいいので一覧表的なものがあったほうが進めやすいのではないかと思う。
- 今日のテーマではないが、付記される部分が無ければ分からないということがある。それから、病院の中止という表現のところなど、本来は休止ということ。そういう部分を丁寧に説明しないと誤解を与えるところも感じる。
- 自治体病院の再編の話もしているのであるが、県が青森県の医療圏域を6つに分けるという話で進めていて、今、市で話をしてもしょうがないという話になっている。中止というよりも休止だろうと思います。
それから、ハローワークで、就労人口が28%増えた。そのほとんどが医療、介護職だと聞いている。実は介護の実態は厳しく、例えば、夜眠れないから睡眠薬がほしいと言われるのだが、介護施設では4時に夕食で6時には寝る。そして、1時、2時に起き出して徘徊する。これは介護者にとっては、仕方がない。夕食を食べてから翌朝まで、絶食状態となる。状況が良くなるのではと思う。そういう

状況を、若い介護職の方が見て、将来に希望を持たないとなれば、子どもをつくってとかという思いにならないのではないかと思う。なので、介護、老後、高齢者福祉の充実については、徹底的に取り組んでもらいたい。

- りんごの話だが、後継者がいないという話になる。青森県が一番のりんごの事業の今後が気になるため、取組を検討してもらいたいと思う。
- 介護の問題にしては、介護、医療の現場で、まだまだ女性を中心としたものであるが、就業人口は増えている。しかし、介護の実態はまだまだ厳しい。それから、りんごについては、後継者がいない、という弘前らしい問題もある。
今のような意見も踏まえて修正できるものはしていただきたい。
- 事務局の説明の中に、「JAXAへ行こう事業」を廃止するということの説明で「効果があった」という説明であったが、その効果をどう測っているのかということが目に見えない部分であって、スピーディーにというが、効果測定が難しいので、判断ができないのではないかと思う。なんといっても、子どもたちの笑顔あふれるまちということであるので、長い年月をかけて、効果があるのか、無駄かなと思うこともやっていかなければいけないと思う。そういったものを大切にすることから施策とか事業とかが創られていくのではないかと思う。
弘前に沢山人が来るようなイベントとか、活性化のための取組をしているが、その反面、りんごの担い手不足という問題があり、子どもがりんごについて分からないとか、親も子どもにりんご農家を継いでもらいたいと思っていないという現状もある。子どもはどんどん減っている。婚活といっても、結婚する世代の子どもをいきなり産むことはできないので、小さいこどもというところからの取組を行っていく必要がある。岩木山にしても、桜にしても、りんごにしても、美しい村にしても、その裏に、子どもの教育、大人の生涯教育というのは大切である。
- 岩木山観光は大変いいと思うが、噴火も怖い。その裏に大学と連携した火山噴火の予知の研究とか、桜、りんご関係であれば、その裏に環境の問題だとか、一つだけではなく、その裏に繋がるものを見通しを立てて計画していく事が大切であると思う。
- 移住について、イギリスでは、ロンドンから 2 時間離れているところに住むことがトレンドであるという状況もある。弘前から東京に通うというところまでできれば素晴らしいのではないかとも思う。日本の人口は決まっているので、単なる引っ張り合いではなく、長い目で見た方がいいと思う。

(3) 今後のスケジュールについて

○事務局より、今後のスケジュールについて説明。

～閉会～